

2021 年度人文学部 FD 活動方針・計画（キリスト教学科、人類文化学科、心理人間学科、日本文化学科）

まず、学部レベルとしては、カリキュラム委員会を中心として 2020 年度末に実施した卒業生アンケート調査の分析を行い、人文学部のカリキュラム・ポリシーとの整合性の検証、2017 年度から開始されたクォーター制に伴う授業運営の問題点と改善策の検討を引き続いて行っていく。

2020 年度は、新型コロナウイルスの影響で、多くの授業がオンラインとなってしまった。この状況は 2021 年度もある程度継続する可能性が高いが、対面授業を十分に行えなかった影響が、教育面、課外活動などを含む生活面にどのように学生に及んだかを調査・検討し、そのマイナス面を補填する方法を、学部を挙げて考えていく必要があるだろう。特にまだキャンパスでの授業や課外活動をほとんど経験していない新二年生への配慮を考えていく必要があるだろう。

学部共通科目群については、「人文学異文化研修短期留学プログラム」はコロナの影響により、2020 年度に続いて 2021 年度も中止になってしまった。やむをえない状況であるが、感染状況が収まるのを待って再開できるよう、準備と学生への情報提供をしておきたい。再開された際に、多くの参加者を得、効率的な運営ができるよう検討する。

2020 年度は、多くの授業がオンラインとなったが、それはほとんどの教員にとってはじめての経験であった。前述したように、対面授業ができなかったことにより失われたものも小さくないが、同時にオンライン授業の経験によって、新たな授業手法の可能性に気が付いた教員も少なくないと思われる。オンライン授業の経験を持ちより、よりよい教育方法を模索することも行っていきたい。

2021 年度からは、100 分授業が開始される。10 分授業が長くなることによる生じる弊害はどのようなことで、どのような解決策があるか。また 10 分長くなることを生かしてどのような工夫ができるか、などの情報を持ち寄る試みも 100 分授業が定着した頃に行うべきであろう。

学部では毎年さまざまな内容の FD 企画を行い、教員の教育能力の向上に努めてきており、その成果は着実に上がっているものと期待される。しかしながらそれを検証することは行っておらず、実際にどのように成果が上がっているのかは確かめられていない。そこで、過去の FD 企画について教員にアンケートを実施するなどの手段により、従来の FD 企画の成果を検証すると共に、今後どのような企画が必要なのかを考えていく。

学科レベルでは、学科ごとに次のような計画を実施する予定である。

キリスト教学科では、これまでにない対面授業とオンライン授業が併存する状況で、学生の学習意欲や理解度、ゼミなどでの率直な感想、オンライン受講の実態について注視し、より有意義な授業手法を引き続き検討していきたい。加えて、とくに低学年に対する学習面、

心理面での配慮を工夫する必要があるだろう。また、4年次生の研究プロジェクトについて、学科で行なっている題目提出、副査制度、要旨集作成、卒論発表会などの改善も含め、より充実した卒論指導のための方策を実行する。

人類文化学科では、原則として学科教員全員参加によるFD委員会を定期的を開催して、今年度のカリキュラム策定の過程で問題として浮上してきた学科の基礎演習科目担当者に関する新たなルールづくりをすすめるとともに、長期的な展望のもとで今後の学科のカリキュラムのありかたをこれまで以上に具体的に検討していく予定である。

心理人間学科は、継続的に①多様な機会をとらえて学生の情報、授業の情報を共有するよう努めること、②公認心理師受験資格対応のカリキュラムを計画通りに進めること、③新入生、卒業生、オープンキャンパス参加者を対象とした学科教育にかかる調査活動を行うことに注力してきた。2019年度より実施してきた④学生の計画的な履修に対する学科としての指針に沿った学生指導を進めること、および⑤授業外での学習を奨励することを、今年度も行っていく。近年、公認心理師受験資格対応のカリキュラや新しい指針の導入、授業外における学生の自主的な学習の奨励を続けてきた。2021年度は、これら新しく導入した仕組みが学生の学習に有益に作用しているのか否かについて検討することに重点を置きたい。学生の学習に対する影響、成果については、定量的・一定性的把握、主観的・客観的等多側面からのアプローチを学科で検討し、今後のFD活動に資する情報を得ることを目指したい。

日本文化学科では、例年行っている卒業生に対するカリキュラム調査等を参考にしつつ、より一層のカリキュラムの充実を目指して、継続的に話し合っていく予定である。学生への指導に際しては、従来と同様に学科内における情報の共有を怠ることなく、細やかな対応に努めることとしたい。毎年年度末に行うFD企画については、学科内での教育システムの向上に実質的な効果があるよう、毎年工夫を凝らしたさまざまなテーマで行っているが、本年度も有意義なものを開催したい。さらに、2019年度から始めた卒論発表会について、より教育効果の高いあり方・実施形態を模索していきたい。また、今年度から実施される、新たな評価基準に基づく卒業研究の評価について、2020年度の試行的な実施を踏まえ、適切に行いたい。なお、昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルスの影響で、一泊のオリエンテーション行事を中止せざるを得ない。それに代わるものとして、4月中旬に予定されている新入生オリエンテーションを充実したものとし、1年生が、大学生活を円滑に始められるように、例年以上に留意していきたいと考えている。

以上